

令和8年度 布佐中学校 全国学力・学習状況調査 分析結果

4月に3年生を対象として実施した、全国学力・学習状況調査（国語・数学・英語・アンケート）の分析結果を以下に記載します。ご覧ください。

◇令和8年度の調査結果の分析◇

I 調査結果にみられる特徴と現状分析

【国語】

- ・過去2年と比べて「言葉の特徴や使い方に関する事項」の項目が向上している。「読むこと」や「短答式」の領域では正答率が高く、内容を読み取ったり、選択したりする問題を読み取ることは得意である。
- ・「書くこと」「記述式」の領域で課題があり、読み取ったものを自分で表現することに課題がある。

【数学】

- ・「数と式」の領域では、全国平均に近く比較的、基礎的な計算は身についていると考えられる。一方で、特に「関数」の領域に課題がある。ともなって変わる数量関係を表・式・グラフに関連付けて考えさせていく必要がある。
- ・記述式と「図形」の領域に課題があり、図形の性質を見出し、その性質を証明する方法を身に着ける必要がある。

【英語】

- ・3技能の分野においてはどの分野においても全国平均を上回る結果となり、基礎的な知識・技能は身についていると考えられる。今後はさらに記述式の問題に触れていくことで、生徒が抵抗感なく問題に取り組めるような支援を行っていく必要がある。
- ・話すことについては、記述式や話すこと（発表）などの要点を事前にまとめたうえで発表や書き表すことに関しては難しさを感じる生徒が見られる。日常の授業の中で抵抗感なく発表できている部分はいいい方向へと結びついているので、今後は要点をまとめることの指導にも注力して支援を行っていく必要がある。

【アンケート】

- ・英語に関する意識および英語の学習活動について、全国平均に近く、ALT との活動など授業での積極的な対話活動が効果を発揮していると考えられる。一方で、国語や数学については低くなっているため、読書活動の充実や、基礎的な計算能力の習得などを工夫し、苦手意識なく取り組めるようにする必要がある。
- ・生活習慣や向社会性について、全国平均に近く、日常生活面では落ち着いた環境であると考えられる。しかし、学習習慣や学びの自己調整の項目が低くなっている。授業時間以外での学習についても、学習の意義や家庭学習への取り組み方などを繰り返し指導していく必要がある。

II 改善目標

- ・「知識・技能」の習得に向けた主体的な学習習慣を身に付けさせる
- ・「思考力・判断力・表現力」の向上に向けた協働的な学習の推進
- ・ICT の効果的な活用の推進

III 改善方策

- ・授業の中でグループ活動の積極的活用
- ・ICT を活用した個別最適な学びの実現に向けた授業改善
- ・読書活動の一層の活性化
- ・小中間での、学習内容、学習習慣の連携・協働

Ⅳ 検証方法

- ・全国学力学習状況調査結果の分析
- ・授業の振り返り
- ・定期テスト、各テストの効果的活用
- ・保護者アンケート
- ・学校運営協議会会議
- ・職員による自己評価アンケート